卯畫帖

第一園中

中村俊定文庫
文庫 18
588

京都帝國大學圖書

癸卯
試筆

猶の頭ひとつ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

門松や[illegible]
[illegible]

中村俊定文庫

春色

きてなれる唐絵とかすぬ梅の花　一名　宗拱

歳尾　四九の年に入れる

ひつくるもの神ろうらやみ年一夜　今

歳旦　今年や三陽と共に立へいは地のさかりなれく

一貫舎

古つの元日くるかなはまなすら　此英子

雨をうき夜とをしみ押軸　梅人

思ひ出し昔面影　鳥林

春色　安業おにとかくるるきぬの旅ゝそしらしたて
わ〻毒のゝ〻にかりしんと

〻〻春きぬるちゝ度ゝ〻〻〻

春興

神ゐちてこゝやまとの業搦　國字子

歳暮

白浪のいさこなくんこうの雪　仝

雛日

初日うゝ沖野ゝ雪や二人浮　好釣子

ものていハ庚申波のうゝゝ　梅人

地咲て色ハ淡乃雪ゝ蕾　百枳

題魚

まゝ、こそ畑の菜やまゝの色　好釣子

年尾

羽ばたきもなく今も鳴　やさしれ宮　仝

旦芝名

うけとるは足もとの一初日哉　左拱

面白の笑ひ仁とて所をうか　〃

得よし茅ひとめとわり英俳　右拱

俗を瓜俳て疲ぬ松や大吹日　〃

嵐岡て居不ゑて玉のまゝ　其丸

松山のうゝめくなりぬ年ぬ　〃

くまうやゝ又光陰のうゝ免　楚江

切ぬくせしきゝや紫竹黄　〃

袖をやぶして蛸を玉と箱　三河田原　米虫

行分したのみ八重除夜の鐘　、

かくれ蓑（所々の雪をうえて）とれもてる門日かな、　鳳羽

うの尾やこうもり化けて蓑ぬ　、

ほかるものく天窓うてまぬ、　魯人

夜の雪なくく云ふ二ヶ月　志賀に

をもて鬼まつのもおれくく　、

月市と今朝あやく父母を福山城　朶長

皆りいふ乱れ入る大晦日　、

鶏旦

一夜の鶏小ふくやなぎの長　李庭

行列はたらく実の面影　梅人

四暮

黄金の今やゆるん初日の出　祇雀

世なれてふ雲引金師をぶく　、

海山の光ひとつのやうの春　百択

敢て和漢を孫とれ拾ひやうれ　、

一ふしのこゑ絶し世一ふ年賣　李庭

ず形へて竹の枝をかくす　小好
冬ながら春もこゝに見もこゝに世の師を　〃
久日や人間の[illegible]を忘れて殺しの声　英二
捨てものとりあつめ集てうの市　〃
細長き枝て清らやむの長　壮好
改る掬の拝除や年の暮　〃
初日の行廣百に豆腐屋　秀町
海山へ出て雲の行くうの市　〃
人寄せ毒延てむのくら　梅鱗

年浪や赤ふくれ吹く松の風　梅志
蔵前や赤ふくれおてを朝の長　〃
右手まく磨く納て退帰る　〃
京手和て磨とてをの春　梅之
鈴ひらけ長しをやうの湖　〃

聖節部

萱草や松男乃強ひ出　鳥林
、　竟試ふ分商ひ出　梅人
私淵のむに寄る日迄て　蒼谷

旦暮　上総行川連

暑蘇の長年又ゆくとし初日の出　小土呂　兎月

長閑搭や玄孫孫長　梅人

留冥ゆゆ紫乃師を乞ふ　兎月

家くのひゆゆ悲しゆゆ戸の春　行川　里九

行ゆ長たゆゆゆゆ年の豆　梅林

井戸や明ぬゆ寝室の窓の下

沈香や烟ゆ不ゆゆゆ舟　雷我

戸窓や沈重の波ゆに露の蕾

解搭や月ゆゆゆゆゆ

礼に来ゆゆゆゆゆ重師　銀鷺

衣玩古い一家八間引ゆゆ

吉助も衣改ゆりて右の表　増田　梅亭

うゆゆよ換八ゆせ年の更

罪ゆ来御代の蹴ゆ初ゆの春　久我京　錦水

往を紀春を重人や家の梅

石水やもを汲ゆ罪乃ゆ　大戸　木端

いさゆく系越ゆ寒や年の舟

悠々と四季変り一月の景　笛会君　錦園

春雨の絲ゆるぬ柳や手水賣　、　大田氏　顧道

住久て門ふりぬ富士の春

静寂や竹を入て梅と月ひとり　、　石神　石水

三日月ふくちりけり門の雲

たゝゝとゆるぬ雲やきりの春　、　三又　三水

東方の海ゆ出る日ぶ

の実家の屋根ひかるひぶ　、

初日ゆ出て頃や福島中　、　東水

ゆ波をうてをりや若草

研之の鏡し清しの春　行川　啼花　、

海ゆ出る狐火ゆ見ぬ月ぶ　、　若山　抑香

蛙の歌をうるをくやうの声

年ゆ若ぬ新しおひひとり限　、

春雨無

笠解の糸のゆるゆる長の風　錦水

ゆ茶ゆ出ゆ日に焼て伸ゆ　三水

投入や弗一ぶ要庭麦　顧道

ちよくちよと鳴く雀の窓　石水
まろ風やなしふ柳のもつれ髪　東水
羽衣の一ふしに露の方の一座　錦園
まつ毛の色の外手の小時　木端
あらまして桂の玉の柳ゆふ　梅亭
無恵みなに買ふ場なぶ　梅林
言解しを乎武硬ゆけく　雷我
問ふ度て又ひらしを枝　銀鶯
羽このゆひきてハ毫のふよう　柳香

言解のゆてふうゆ梅乃毫　里九

四季春無

三五に幾十ゆゆ新の新　行門　梅賦
神てうに春の白ひを白ふ多　下大多花　壽客
えゆやきのふを美の人うう
嫁ゆきやを亜丈稲を一万度　大上　茂水
天うゆて行ふ新春ゆ三ッの朔
中盤のゆものう　俳延
の毫ふ今ゆものうゆ始　新田　月菴

面白き沢山十九の尼　おと
偶を形くゑ　布花　金圃
その新しき春の来くるきぬ砧　秋芳
三つの幸伝ふるを福寿草
岩清水　雲花
ゆゆしき世の夢や古屋
年々の門を寿麦寿　栃子訂
屠蘇汲くふとせの新や松の中　作岡　扶石
候つるや波如くもなもなる代拙

男　八壱　里遊
水の鏡　年年ふる
窓明て暁てハ拙く茶竹賣　梅賦
夕節や竹　絵巻列れく兒一人　茂水
茅葺やこの毛織て活一ツ　金圃
ふるくとそれハ沖く　刺　敢
玉川の鏡　月菴
青田苗小坂りくハ庇　汲干浮　雲花
杉ふるそれ　涙をつ　秋芳
雪やかりうちの谷　里遊

七種の[illegible]の日の夕鳥　壽客

春風や[illegible]編子の節　松石

歳因

二王よりも前に[illegible]ぬ門の松　行川

仏児[illegible]に[illegible]に緑[illegible]　梅丸

柳霞和[illegible]乃日も繰[illegible]　梅人

春無　梅調

貝[illegible]の風吹[illegible]れ毒　梅丸

[illegible]　[illegible]

焚れぬ[illegible]妙[illegible]ふ年の大[illegible]山　今

師[illegible]き[illegible]を[illegible]ば[illegible]勝救大[illegible]ひ

[illegible]投[illegible]無の[illegible]ひ[illegible]

[illegible]恩[illegible]試[illegible]年[illegible]八[illegible]

我救年[illegible]俗の不[illegible]八[illegible]風

捨[illegible]脊中の[illegible]人[illegible]

[illegible]の[illegible]

高の法師[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一部[illegible]

下絵古岡連

第四著春興

[illegible]

如蘭

[illegible]

[illegible]

雨桂

、如甲

、浦人

、梅秋

、川捨

[illegible]

女子拾遺　恋ふる年の雲　、
矣し会中に初日や二子山　馬髭
浦人の子なぬ一本やむ先の雲　、
蕃薯葉や枯ふ伸ふる露のそ　里石
学乃兵れぬ玉や宮なふ　、
福寿草ぬくんぬ新の梅　柳枝
ま〻ま昌し弧ふ家　、
屠蘇仕ゑ花ちやふや師竹　一乗
いとふい学ふいふ年の梅　、

けふふ〻中ふ後賀し初日紅　女紫英
場当の常長くし除の華　、
ふ居ゑ荒神松ま代の春　梅柱
心吹のけふ翁く除ふ　、
仕ふ戸に梅ゑ蕾く初春　芥仙
年の彼月日は器ゑ大三十日　、
先年ふ公ケ叶小福寿中　研石
ふふ碎ゑ烟隅みふ母ゑ　、
的雅仕ふ母ふ不あふ朝雲　笞舟

絵入り移て数〻年の板
、五中
君が代の栄の色梅千歳
掛そに戸をたてすれす年暮
、霞橋
眠りあるるもの栄の
を用る段陣くるとして汐干客
、一釣
西坂敷の高方へ腰を定のけ
、以行
警衛の川岸やりくるみ
杉弁のうきもとの
うくひす一人悲しの身果被
、

為水の汚瓶に水くるる年の垢
古廓
、
格成れたちぬ鬼あり大三十日
、松風
書家なる基とのうく梅の花
、
右小書屋書もきれて小はもこの
、東市
門書のきの年の宮屋を初日の公
、
形年の実の〻の形の古書
、蝶包
年初の梅小一礼也てくる
、
金銀も桂一るる新小年の書
、松鳩
和爰の〻きに連て不二の書

年の暮近く宮小屋のあと　、
えりこの宮霜とけて梅のた　和考
ゑをそなえむとふ門の鶯仕丸　、
むすもしらと梅かゝ初日松　如雪
移せり師走の背戸ふきしわ　、
只ゑ川の御代孫やう昭　露穂
酒りこの年ときのなつし孫　、
かくしく松うゑ日のうら矢　梅玉
明石の松子ぬけうゑ春ふ　、

切風中こゑ[illegible]れて[illegible]鳥　葵道
鶯[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ぬ　、
梅うゑ小屋方作[illegible]ゑ[illegible]告　仙凉
吹て切風中引戻柳[illegible]ゑ　、
宮引こゑに息られる賢法師　此柱
明日年の師をおきひゑ会　、
十ゑのみゑくゑゑ初の長　甫遊
年の浪波り深り鞠の長　、
ゑ引ゑ長宮伯の師をゑ　白兎門　可卜

尾花の長旭の門ゆうゆう海を　一原

銭苔も恨さき色ゆ花ぶ　、

春風ゆ物女ゆ傘しめのもし　何白

そこそこ沈こ傘の雪　、

傘乃下し自隆ゆ中ゆ西　中葉

買ゆ書ゆ傘ゆ雪ゆ　、

油春　奥　　吉園

茅蔦野に灯火細一筋火縄　既酔

言解蛙ゆ釣下法　梅人

羽掃ハこゆ花の時日ゆて　左拱

四季春奥　　河内茅舎

茅水ゆ星ゆ月ゆ燒の井　蓑風

一掘り名代し足ゆ松引　、

行年ゆ春ゆ降て除夜の雪　、

又ゆのゆ沈ゆ神日ゆ　上州憩社連 梅史

ぬゆ出て風ゆ蛙ゆ　、

長春ゆ松ゆ松ゆ車　、

見ゆ紀中の蛙ゆ　好童

時くの拾ひてあるくまとれば　、
行先の多形と今は年の実　、
余仲之意波と今暮く帰の音　雨更
梅馬にて波おろ入江なる　、
傾城乃武者わりて燈籠　、
えりや黄ゝなる　山乃秋　武本左　梅亀
長不さの多に和まる風巾　、
野人金の漆ゝ作ゝ家舟　、
大仮の紙乃ち　ちさよ月の春　菊潭

梅咲や我人知るあらうかち　、
おとゝつきの家も秋やうの色　、

因蕉

黄金のもやひゝ市日のうち　梅弟
を乞れ仲春に琴安うさまや　、
きゝとして稲ゝ春の石の雲　梅賀
年の市男山乃女ゝ邪　、
えりや着に先咲くむらか　還珠
とりの後八重に赤ら月照　、

栗田

月雪も今日移さん むの春　蘇門

春興

井戸一園のゆうべ寂寞たる

手ぬぐひにむすびれし事を

笑ひて

養ふかたち　他郎の美蕾ふ

栗尾

一日乃ふ色に色染取の月

、

元日や

価千金

花乃量

八中

買ひもとめて安く

松風や年の更　今

[illegible]　鷺月
入水と競くらの淺き、
改る音ぞ和らけて色ぬめ　長民
[illegible]の[illegible]、
門くて朝見やをし生時　琴調
[illegible]も安し舟枕、
[illegible]朝[illegible]の[illegible]　亀拱
[illegible]鬼[illegible]ハ[illegible]菓と年暮、
咎橋と[illegible]　亀柳

[illegible]のを[illegible]、
例て来る春の[illegible]　舟　鳥川

春與

淺[illegible]ら[illegible]ハ　魯人
梅[illegible]　英二
[illegible]　鳳羽
新[illegible]流[illegible]梅の白ひ[illegible]　亀拱
梅[illegible]　亀柳
[illegible]に服[illegible]ハ　鄙坡

ちりかゝると梢はぬれ多き春の雨　八巾

題　蕚

えうやかにてうれたゝんろくの人　高門　雷沃

をとに蕚おかまんさくらの雨　〃　蒼谷

えにはや高し高て岳ぬうれ鈴　〃　湖月

万象し墨を鏡の家人点　〃　祇川

えにはこゝ下られは眠うなる

年の春も我家も豊乃時をと

ちりそめも高小一信昃たゝ

題　蕚

拭く歌へ梅の墨りも和ゆるう　孤燈

ゆるとうも仕書て蛙年の淡雪　〃

青柳玉の簾や門の春　和月

竹を疲て果枝を行年れを　〃

ゆうゝとたゝむひゆの見　其暁

居眠し舟のうゝて年一夜　〃

鳥羽玉し乃けはゞの初日うな　嵐雄

日蕚うゝ年や水ゆゝし垂仮　〃

碎[illegible]

風[illegible]

一歌

嵐雄

○

福[illegible]

[illegible]

床の[illegible]

[illegible]

[illegible]

春[illegible]

新[illegible]

收の子[illegible]

梨童

、

鯉丈

、

弄花

、

英堂

、

芳しきはの二系の福寿草　上総長柱賀連　竹系

年の実りは豊を待のうらぶ　〃

松と日の白つ山やそ朔乃月　竹丈

年の尾を引の糸井の車尾　〃

彼麗ちて遠ふ子めしし乳の春　竹夕

芝垂れやうく語ら月日貝　〃

混沌の須ふ笑し日の太祝　太田　冨翠

退語ふ垂八外ふ垂ふ梅　〃

青の函は小抵と落を玉の裏　女　竹露

煤竹の又ふ垂ふ年の矢一筋　〃

ふ白の雲ふ垂ふ竹鳥　竹裏

ふ〻ふ垂ふ冨岳の土年房　〃

初夢や兄我伏ふ也　男　桃司

坊当ふ除兄先晴　〃

冨士ふ雪ひふ扇ふ三つの朔　竹堂

海苔ふ子ふ垂を砧ふ伊勢磨　〃

末

世の煤ふ拂ふ露の眠乃ふ子　樵刈

○

にたくと伊勢の国の年の暮の地蔵堂の年の市

年の暮の地蔵堂の年の市　角子

えりも毋子沖の波に浮て　梅嶺

きりなく白の帆をかけ　錦江

梅の花の国の春の日の高

掛乙子鯨の尾の高くこの夏

茶水や宮子けして　梅秀

鯨の骨の高くこし年の暮

其三千年世界をふけて

巧爺の春の初の春

遊客の金を語てこうしたれば　英布

こりゝ宮やそこらいきの思合より

大黒と女郎買の年の市

英賀

朱子春の掃除年の名

時習

長崎の金の亀の福寿草

○

幾年を経てふる玉の春　松人
餅つきの戸ぬけ音もなく猫　、
日くに咲くもみぢ葉　蓮曉
子栖を活くるかゆ例やうす麦　、
えりもやまとなるふく島地　煙賣
五年の孫子拾ひ子の雲　、
癸酉歳登る初日の出　周風
世世の作の板の大瓜日　、
大門に奴ぬきさす夢ゑる　船艫

正月さいさ府貸ん年の市
門松の去日の来もみぢ　梅笠（呉方改）
盗まれて多ひけるの市　、
我点に先ちかりの江　二角
大年の小判ちくて幸ゆく　、
きくせてけるうり松　梅觴
茶府さるの年の納かる竜　、
露ちと爲めてそ朔の長　梅調
年ふてもきる飛後まそ年の牛　、

○

えんぶくの翁や不二の山　秀峨

能事成るうつもれる長季哉　、

門松や東ぶいきしたむす国　兎口

旨人の頭る川なり年の猪　、

歩りうるやや戎子代茅うの徳　泉里

小京女や房りに塚長のふく茅　、

蓑笠子子京ゆこ西のうつ交ア　鳥道

松風を馬ゴ壹買ふうの寒　、

湯ちきしは有玉の蓑　狐　曲川改　、桓

山住ハ掃くの蓑も松一年の雪　、梅呂

むの春掃ふ坊ちむ古年の雪　、

ゑれう出て遊て菊ゆうう忘　、

一ツ星移りしうゆ白水　菊若

十六盤し松ゴ一松ゴうの人生　、

蛛ゴ雪小蛛ゴ枝や年の秋　下ノ井小山　梅鳥

松ゴ似ゴ形しあうざりう壹　、

ゑ松ゴうゑ人ゴ系やゴ羽の春　広浦　生水

解つゝき行燈四士　、
屠蘇酒羽と伸を女除男てふ　茶俤
年の内の巨燈と九き梅ひらく　、
新玉の炊出す風雅　英芳
昊運の春も結んでうゝ志　、
答梅の海和も這出てうゝ　女可乗
春雪のうゝ春山門と吹　、
吹て春初門てうゝ松と年　鴛子
門〳〵の福を乞ふ命書　作　、

○
春の雲八雲しらるゝ梅の候　白芹
撰屠の少義の惜むん　高門梅年　、
うゝ〳〵吹て月日かゝると年の言　大瑞
をゝの敏く白雪ふるゝ　作紙　、
年改の時女子世をのゝ乳　不門
をゝや我春てゝんこゝ　梅居
月やうゝのかゝりゝハ母の言　東園
春に春うゝ　の文爻ふ　李叟

いさ知らぬ今年の子の年に長修　三巴

年賀

移れ〳〵今年永に吉のうり　我泉

候ひや風をいとゝ寒さうな　徳布

世人のあく所ゝ　茂楓

樣〳〵月のかゝれぬ年の登り坂　曇二

掘置や斗こゝろてしひ巡　菊盧

灯の火串にうゝ市の人　逸窓

又ふり年の所ゝ白の葉し　立砂

歳旦

万梅の神ふゝ白ゝ朝の春　亀友子

豐しうれたゝ水　梅人

汐髮の年男ゝ若ゝ社て　長民

能敎館

巢尾

門くゝや 柳ゝてけり 柴井寅

島友子

試筆

河洲より多けく来る初日の光　琴絲子

清き霞を常に富士の根　梅人

待君も徒尾の春五人て　湖月

春真

仙人掌の多の細てしなる葉搦　琴糸子

歳尾

竹彫りたる家の紀年の家　仝

青陽　雪月樓

春の色ふかくてふきて紅日新　花人子

子代と汲子代の師出竹　梅人

除夕とまを御るかしつきる　梅弟

春名

一ト つゝ貴き問こゝ葉ぶ　花人子

金米

俗ゝゝ事ぶ脊爾ゝ紫竹賞　今

煉丸日の門ぶ形　芭蕉ぶ　松里

きのゝ
いつしゝ

苔のなきし蕉の志や御代の恵　牛迄連　来志

世ゝ
ゝ

下戸ゝゝ門ゝゝぬ家や年の朔　里鳥

喫人ゝぶあゝ歌　六、三十日　、

吹神る行風ゝ　門の春　古遊

寅ゝつ人ゝ子里ゝ師ゝ　、

大級の神ゝ年ゝゝ初ゝの公　鳥口

年の夜や　ちやんと跳子ぬと袋　　、

神宮に明を伸ぶる霞の春　　水車

丁稚八郎平　年の暮　　、

袖を引て　門の雪　　十口

蓬莱の帯も　年の春　　、

国のなつかしさ　今朝の春　　卷仙

人の老活やいとし　炬燵の底　　、

富の春　ひらく　蓬の花の春　　為水

大年や　海と山　　、

引礼者冨士を見に出掛るか　　素人

餅ぬきの乳母も　形て落代拡　　、

春雨

梅ゝ雨　ぬれ　ぬ　ふるい　　素人

いさ　ゝ　て　代　結ん小松　　為水

吹ゝ　余ぬ　部　弟　　卷仙

跡　極の　柳　雪　芽　　十口

雨　や　原　の　新　に　菜の色　　水車

雲　雨　の　鶴の連の似合同士　　烏口

梅咲や京住む窓し終ふ　古遊

こけむしる氷ふれのぬるる邪　里鳥

も咲ぬるしをふれ梅中き　来志

正月の五穀を賜やまりうき　下総岩船東中　宗雅

常よりて行かるるうしの年の宮　仲佐野　粕涼

常心を向て祈むるり日乃宮

斧の蒼ちめや年の梅　、

鳥方うう露の迎や不老門　完笑

萱葺れ沈る天ちう年の市　東星　風志

梅ゝ鳥と蘭ゝ新や初鳥　、

辟ゝてこそ鬼七十七年ゝれ　次村　除菴

縁神の梅ゝ柳の糸うう　、

山雲脊ゝ海提てうしの市　、

神美や諸くはうう多竜　一穴

年の海方ハ山井ゝ有ゝう　、

常し毛白ハ見しむ色の玄　、　春里

光陰の積る矣ゝけ年の的　、

羽子の子やうれて氣毋を坂の内　吐文

此日や方つくらひて福寿草　秋花

うぐひすの音を聞やもとの声　秋花

琴引て深山のくれ　秋花

年月を越して蛙や鶯　次浦村　和仲

ををしたまをしをりの声の内

かけまくの深くやうの初の福寿草　福田村　菊人

年の尾の新年のを神祭

切るれ傳子鳴き初日うれ　伊地山　鶯光

元旦日もとやく山端より　助沢　扇蛍

傾城八宝式四季の書　高萩村　仙芝

一巻に船や吐出しの宝

伊勢海老もおもしろき年の市

宇佐坂歌やうくく年改め　兎角

明ケて神ふるまて初日のお　東基　一山樓

年の尾に春のいけるを大根ぶり

春興

琴の音ふるはるくくの柳ぶり　粗凉

白浪の咲せてそてさくら哭　完笑

まて柳の風小晒のまてる郷　風志

梅咲や世乃塵く長はるの　雪光

伺者エ多式ゝ多ゝ素ゝ　兎角

咳や日ゝ〳〵梅の枝かゝし　未雅

單四吾

松ゝに二葉〳〵紅ハゝ〳〵りゝ　玉造可雲

東風ゝらゝゝきゝ清きの玉敷　梅人

青ゝ〳〵ゝ春ゝ多ゝ幸の枕草　可雲

新年ゝ〳〵ゝ〳〵つゝ月後のゝ〳〵屠　飯ゝ松風

餅てし歌の後や鬼ゝ〳〵ひ　坂村周甫

名思ゝ〳〵ゝ島ゝ〳〵初日ゝ　、

炉ゝゝゝゝ多ゝ〳〵一夜の嵐　楓

松竹の傾ハゝ子代の琴ゝ〳〵ゝ　安久山一石

ゝゝゝゝ琴ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ年の言　、

ゝの多式ゝ咲ゝゝん福寿草　方田卧石

響ひの多式ゝ春ゝ年のひゝ　、

神東風の撰ゝ門の屠　莊、梅布

明渡る空も春の日の影　鳥月

浪の戸や鳥の音ばかり日新　田久保村　覗星

愈さの空ばかり春の霞

ちんのうと梅と初日の色ひろる　中村　青苔

いさ知らぬ山の端ばかり花ふくる　安久山　千枝

初春のいとひしらぬ初春の夢　兎眠

張る雲やうきの春の蓬　中村　梅堂

思ふ代の岩ぬ流のうたたねの

夢春のかぶとの氣ハ色ろ氣　貸

松風男少年　松月

風の音ハ　清

柳ゑ

言絮の少なし馬糞の　貢拙　梅堂

雲と消えし星ともなる久方の　玉造　可耕

嫁くしも松の花に雪ーーる　周甫

雪の夜ふるる月の梅　卧石

○

戔東し天の戸開けそ朝の色　上ハサ山中　字行

梅さくらわすれて京鮮ふ、

空色ぬけて澄や初の水　高岡　鶴嘴

まこもの葉吹りそ〻ぐの音、

冥土より

えりの色しる佛の芝もぬ　下ツサ岩ア　風葉

冥道の

梢を虎ぬ編

あ〻ぐ〻ぐ〻ん年竜　仝

○

捧ゝやゝを知秋のかりゝき　三河田京　雪仏

一ゝ勢の夢ゝ佛ゝ〻ゝ秋牛賣、

日〻ゝ〻ゝもゝ〻ゝ〻ゝ秋日ぶ　柳絮

門雲ゝ年の雪ゝ一里塚、

窓明し雨ゝ巨燈やむ色のた　八王子戸吹　度秋

増出して本紙を色ゝ年の市、

ゝ富年蓋年の山ゝゝ〻　日本橋　五町

拾〻ゝ〻ゝ紙ゝゝゝゝの年

小松ちゝ末の数を孫で呼ぶよう
ふつゝの五葉揃て楽みあること
江戸の墨画あるハ英の流と云ふ
しきたりまゝての屏風に余白凌と
なれハ八拾人の於遊と似たり
いと細やかさを探ぶ分して
長無ひたを除る絵ばかり

佐と交る苔とも繁や五葉の竜

梅人

○

ちゝと世し十ゝ四葉　畑　鳥林
ワゝ野や色ゝ員ゝ　雷沢
ゆくもゝ員ゝ　小好
ひすひ員の水ゝ解ゝ五葉ゝ　たゝに
鶴ゝゝ端ゝてワゝ郎　保長
宮緑て宮ゝまゝてゝゝ　畑窓
もゝ姫の宮ゝ　畑　梅志
ゝ日ゝ仙ゝ五葉つゝ　鳥川
きのゝ今日ゝ五葉のゝ小ら　琴調

振袖の驚しき花やぎ葉はに　時習
仲　[illegible]　可樂
言[illegible]　鷺子
[illegible]　蓮暁
[illegible]　煙賣
[illegible]　周風
[illegible]　船艫
[illegible]　二角
[illegible]　梅笠

僧正遍照　文屋康秀

法[illegible]　百拙
吹[illegible]　長民

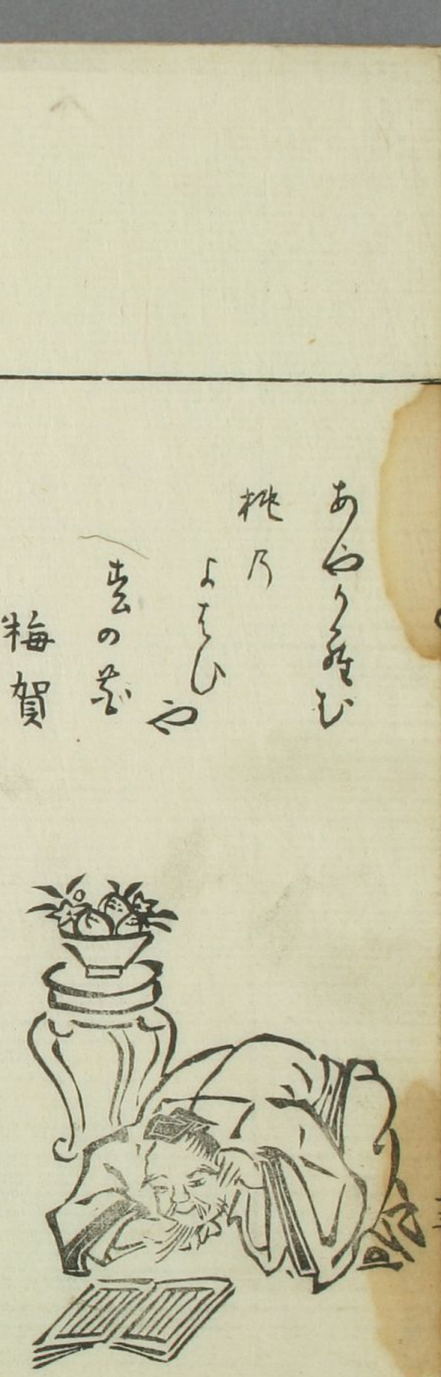
大伴黒主　業平朝臣

[illegible]　左拱
[illegible]　右拱

小野小町　喜撰法師

[illegible]　梅弟
我庵[illegible]　蒼谷

訪ちらや
戯れてをる
牧の笛
祇園
糸ぢふの
いとくくりや
壺の
うち
狐燈
亀の背の
みゆるてや
蓬ゐをる
和月
たゝ風ちを
みてゆく
どの滝
李庭



梅賀

角子

梅嶺
茶帝
生水
秀義
兄口
泉里
筧水

大里　　惠比須

大黒天　春方ちらす帝　錦江
汐まれハ東風し風と和の会　還珠

矢天　福泉壽

矢てを敷く姫の手始る　其丸
春くるゝ　俗ニ春を告る事　楚江

昆沙門　布帝

結ぶの衆ぶつ天の示えて　梅舞
春為の春るの芽を布　岩堂　梅秀

壽　左人

福恩の廉ト紙をや春の意　小山　梅鳥

○

春ふかみ咲けぬる葉のふるぶ　炭析
ちる際ちらぬ花やふつて　梨童
色うて咲ハ蕊ハ紙てふ仏ふ　鯉天
ふるとくハ中ト意を敷ト玉ふ梅　玉花

四文

なる俗ト言ふ葉ふ　英芳

○

竹系　竹文　竹夕　富翠　竹露　竹裏　桃司　竹堂

女

梅調

月利久

松人

桃里

梅觴

仇つれ野ゝ花のうつろひやすき草　其三子

ゆく山の紅ひ葉子の菜畑　英布

嬉しきは山ゆく人の草鞋　英賀

つゝ菊の花とやうつる菜畑　五町

○

うゑ木や年の旭ゝ言と思ふ　有圃

人並子永元天宝風ゝ多　青鉦

むし日の詩ゝ言ゝ歌ゝ那　梅呂

きのふ今日都ゝ言ゝ貴ゝ　其暁

渋谷八谷のうにかりて柳のも　柳絮

梅ゝ恵の渡れハ解る氷ゝな　五涼

昌の言葉八面と吹ぶ　淮水

○

言鮮やかなゝ言の葉ゝ　武赤岩素花

洗ふて多ゝ言ゝ葉ゝ流ゝ　石瀬

言ゝて葉葉摘ゝ社ゝ　子隠

○

登ゝ乃二人ゝ四山　宗瑞

味噌つくる蔵下煎一年の雪　雪戈

寄る年と梅こぶ庭の師走　宗宇

忘かりの師走の果の牛つくし　一叟

○

梅縮て糊すする蔵一夜　素九

綿ぬいて夜ぶかの頃枝露　蓼太

住つるぬ年のよる束わ　浪花竹阿

○

行年や初日の出も終一里　楚若

年行くと人うゑ後の蓑の雪　安袋

溜れしたゝ晴し　大二十日　野逸

玉祭ぬ相もつるもつの坂　柳門

○

さらしみゝ海苔ハ祝て行年を　既酔

風呂を出てえの女や炉端　鳥林

○

結ぶとゝるぬ師走廿日迄　梅人

天明三　癸卯

月並句合題

毎月廿日限

左拱
右拱
其九
梦江
梅調

二月　春雨　詠ん　椿　七月　夏　幻竜　陸吟

三月　若葉　傷　八月　鳴る　角力　ちから

四月　文政　ちから　切　九月　夏　水　熱燗

五月　稼　改暦　清水　十月　冷　炬燵　炬燵

六月　夏の月　ひと　星　十一月　氷柱　飯　雪

此中芳人若君八名立

追加

因菊

杉の行くく彩霞の玉の玉　梅節

柳ふる尾を引ける年の暮収

菖蒲や枝の上の笑ひ笑くと　梅月

杉て咲くあらけ振ふる年の雪

玉奥

鏡の後ろ　ワりとふ　梅月

梅ろ奥ろ鼻の笑ひ笑ふ　梅節

1